

2022年11月25日

パラスポーツの振興・共生社会の実現に係わる意識調査



目次

	ページ
調査概要	… 3
調査結果詳細	
1. 「パラスポーツ」認知度【時系列】	… 5
2. パラスポーツのイメージ【時系列】	… 6
3. 障がい者についての考え【時系列】	… 7～8
4. 障がい者を取巻く社会の変化【時系列】	… 9～10
5. 障がい者スポーツとの関わり【時系列】	… 11
6. パラリンピック視聴経験【2022年7月調査のみ】	… 12
7. パラリンピックが与える効果【時系列】	… 13
8. 東京大会後に障がい者スポーツに関して行ったこと【2022年7月調査のみ】	… 14
回答者プロフィール	… 15～17

調査概要

目的	<ul style="list-style-type: none">・パラスポーツという言葉が持つイメージについて調査し、パラスポーツが世の中にどれだけ浸透してきたかを調査する。・国民の「パラスポーツやパラアスリートに対する意識・関心の変化」と「共生社会実現に向けた理解促進」の把握。
エリア	全国47都道府県
対象者	<ul style="list-style-type: none">・15~79歳男女その他・ただし、マーケティング・広告・報道関連従事者を除く
期間・サンプル数	<p>【2021年7月調査】2021年7月 9日(金)~13日(火) 2,912名</p> <p>【2021年9月調査】2021年9月24日(金)~28日(火) 2,915名</p> <p>【2022年7月調査】2022年7月29日(金)~31日(日) 2,915名</p>
割付	日本の人口構成比にあわせて、性別・年代・8ブロック（北海道、東北、関東、北信越、中部東海、近畿、中四国、九州）別に割付。
手法	業務委託先（株式会社クロス・マーケティング）のモニターに対するインターネット定量調査

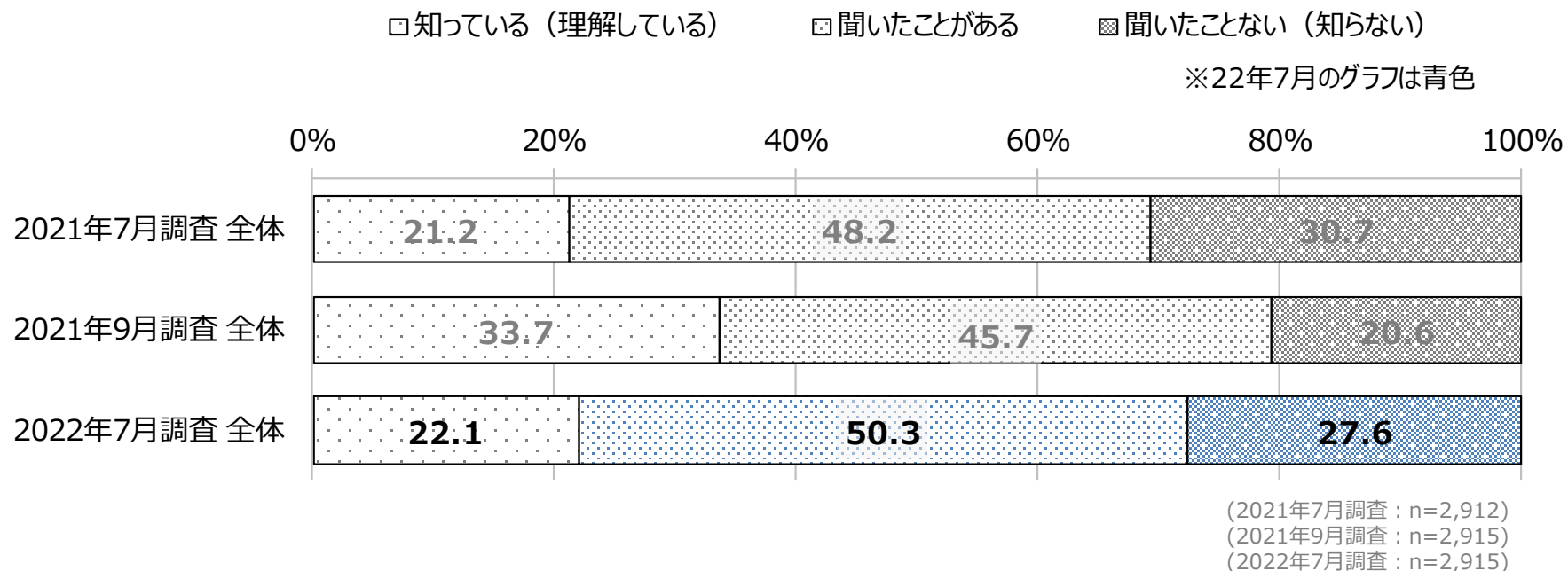


調査結果詳細

1. 「パラスポーツ」認知度【時系列】

いずれの調査においても、約7割の回答者は認知(知っている+聞いたことがある)していた。
東京大会直前の2021年7月と約1年後の2022年7月は、ほぼ同水準となった。東京大会直後の2021年9月では「知っている(理解している)」が10%以上も増えた。

Q10_1 「パラスポーツ」という言葉を知っていますか。(SA)



2. 「パラスポーツ」のイメージ【時系列】

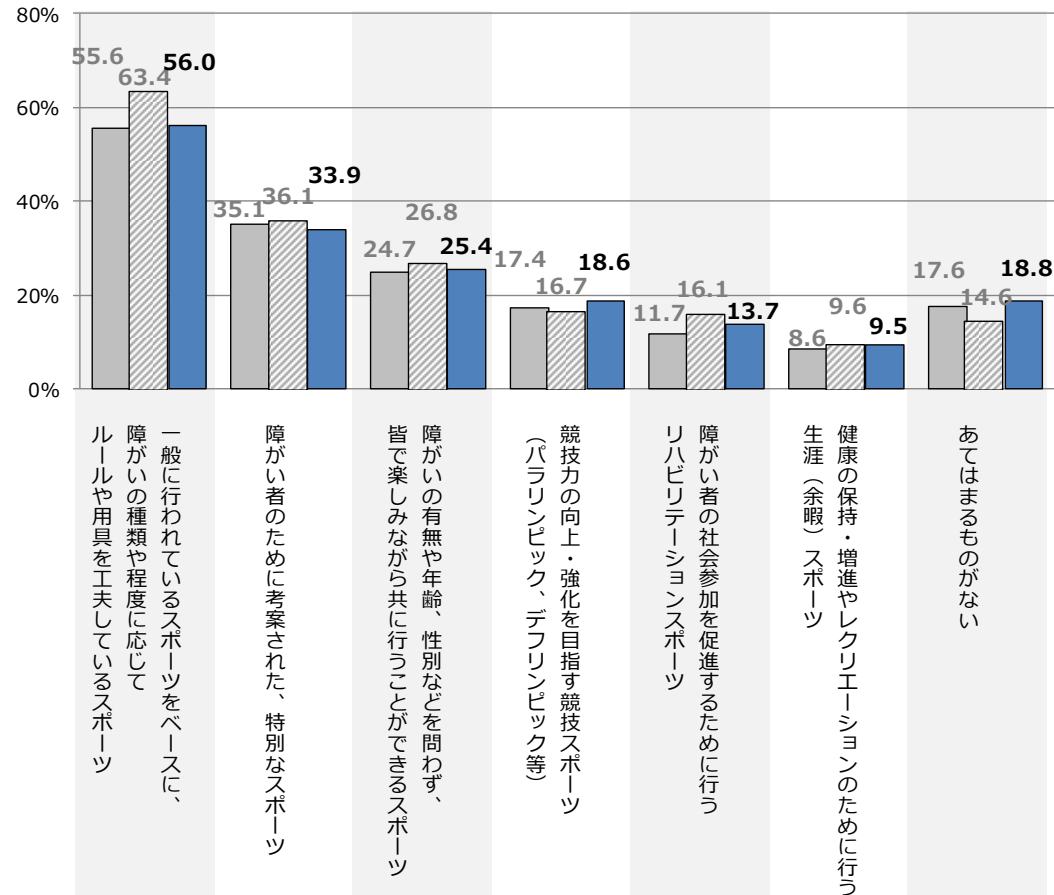
パラスポーツ認知者の中では、「一般に行われているスポーツをベースに、障がいの種類や程度に応じてルールや用具を工夫しているスポーツ」との回答が過半数で最も高く、次が「障がい者のために考案されたスポーツ」、3番目は「皆で楽しみながら共に行うことができるスポーツ」であった。

また、「あてはまるものがない」は2割弱であり、調査対象の8割は何かしらのイメージを持っている結果となった。

「競技力の向上・強化を目指す競技スポーツ」を除き、2021年9月調査で微増したが、2021年7月と2022年7月調査はほぼ同水準となった。

Q10_2 「パラスポーツ」に対してあなたが持っているイメージはどれですか。(MA)【パラスポーツ認知者ベース】

□ 2021年7月調査 全体 □ 2021年9月調査 全体 ■ 2022年7月調査 全体

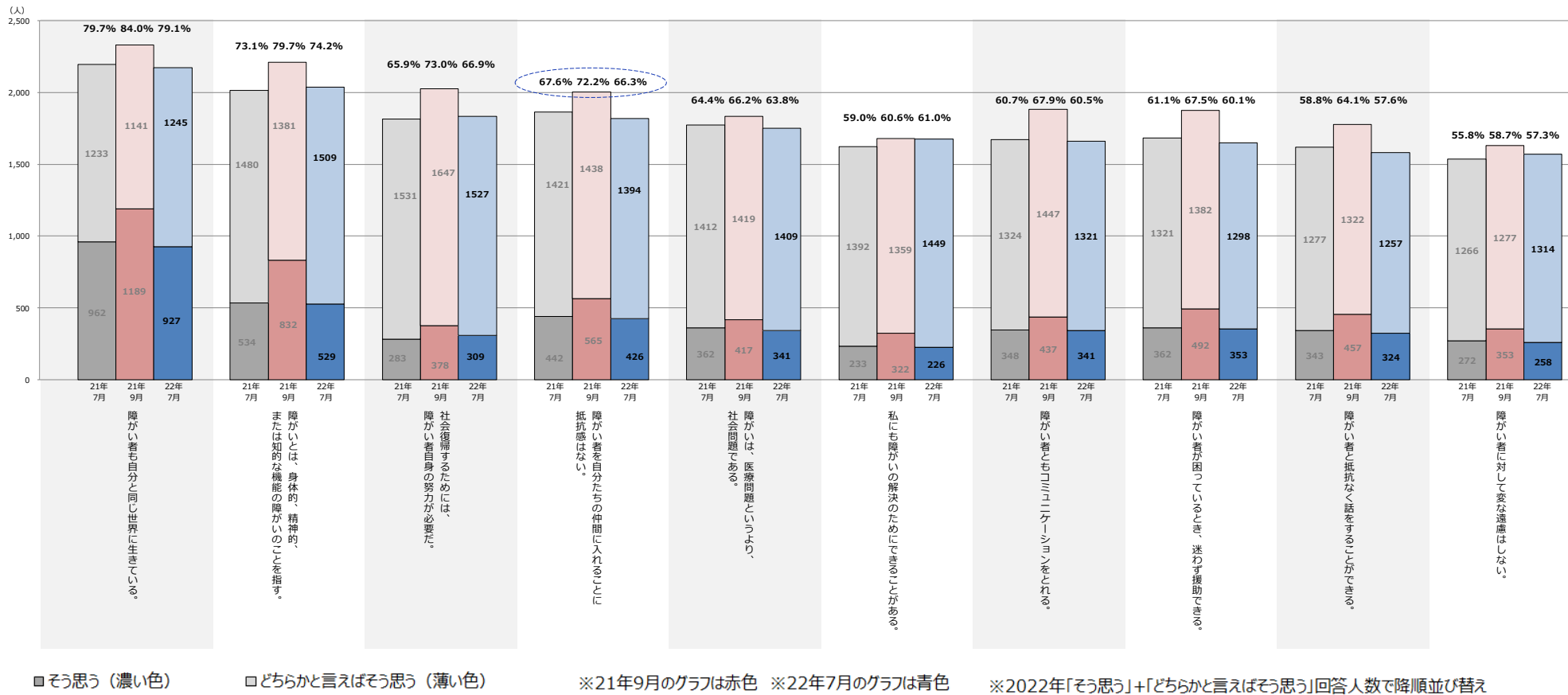


(2021年7月調査 : n=2,019)
(2021年9月調査 : n=2,314)
(2022年7月調査 : n=2,110)

3. 障がい者についての考え【時系列】1/2

障がい者以外の方において、「そう思う+どちらかと言えばそう思う」の回答者数は、「障がい者も自分と同じ世界に生きている」が最も多い。
 「障がい者を自分たちの仲間に入れることに抵抗感はない」は3回とも65%を超えているが、「障がい者と一緒に仕事をしてみたい」「障がい者と友人になりたい」、
 「障がい者と積極的に交流したい」は40~50%程度となっている。

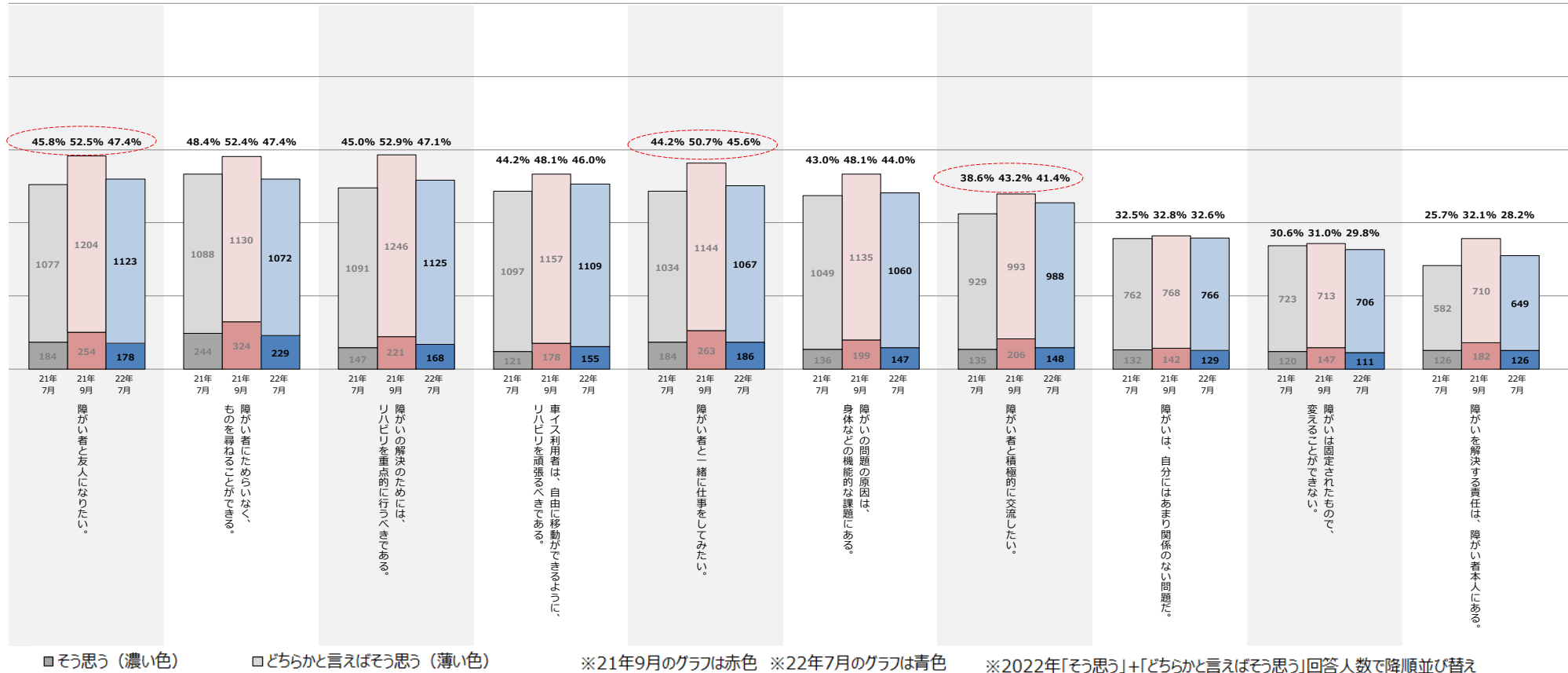
Q13_2 障がい者について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。【障がい者以外の方ベース】(SAMT)



(2021年7月調査 : n=2,754)
 (2021年9月調査 : n=2,775)
 (2022年7月調査 : n=2,745)

3. 障がい者についての考え【時系列】2/2

Q13_2 障がい者について、あなたの考えにあてはまるものをお答えください。【障がい者以外の方ベース】(SAMT)



(2021年7月調査 : n=2,754)
 (2021年9月調査 : n=2,775)
 (2022年7月調査 : n=2,745)

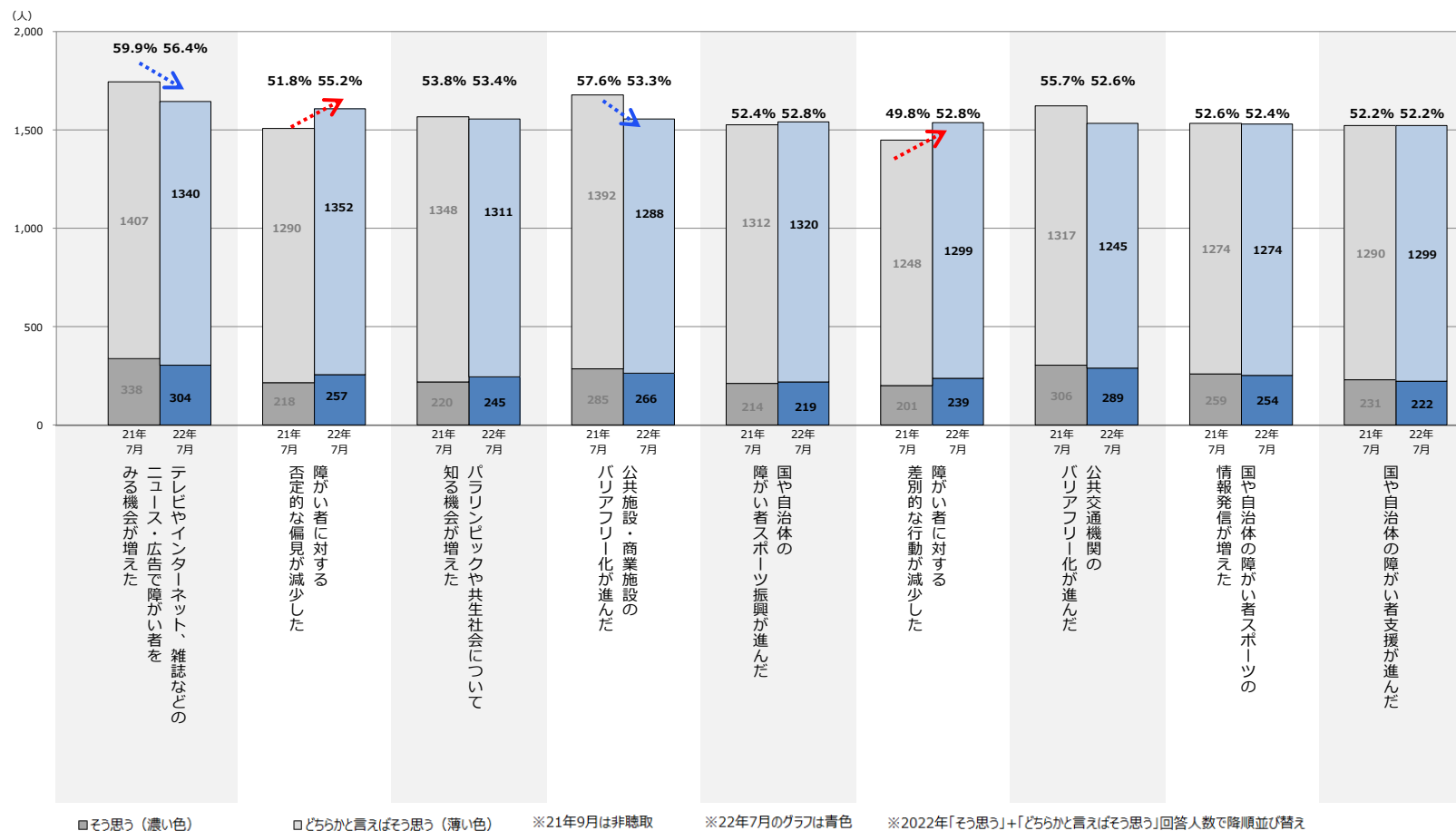
4. 障がい者を取巻く社会の変化【時系列】1/2

「テレビやインターネット、雑誌などのニュース・広告で障がい者を見る機会が増えた」が6割近くと最も多い。
 2021年7月と2022年7月調査での変化については、「否定的な偏見が減少した」「差別的な行動が減少した」は増えたが、「テレビやインターネットで障がい者を見る機会が増えた」「障がい者の雇用が進んだ」「公共施設・商業施設のバリアフリー化が進んだ」は減っている。

Q9 東京2020パラリンピックの開催が決定した2013年以降、今日までの障がい者を取巻く社会の変化について、あなたの考え方をお聞かせください。(SAMT)

SQ9 2021年以降、今日までの障がい者を取巻く社会の変化について、あなたの考え方をお聞かせください。(SAMT)

【2021年9月のみ非聴取】

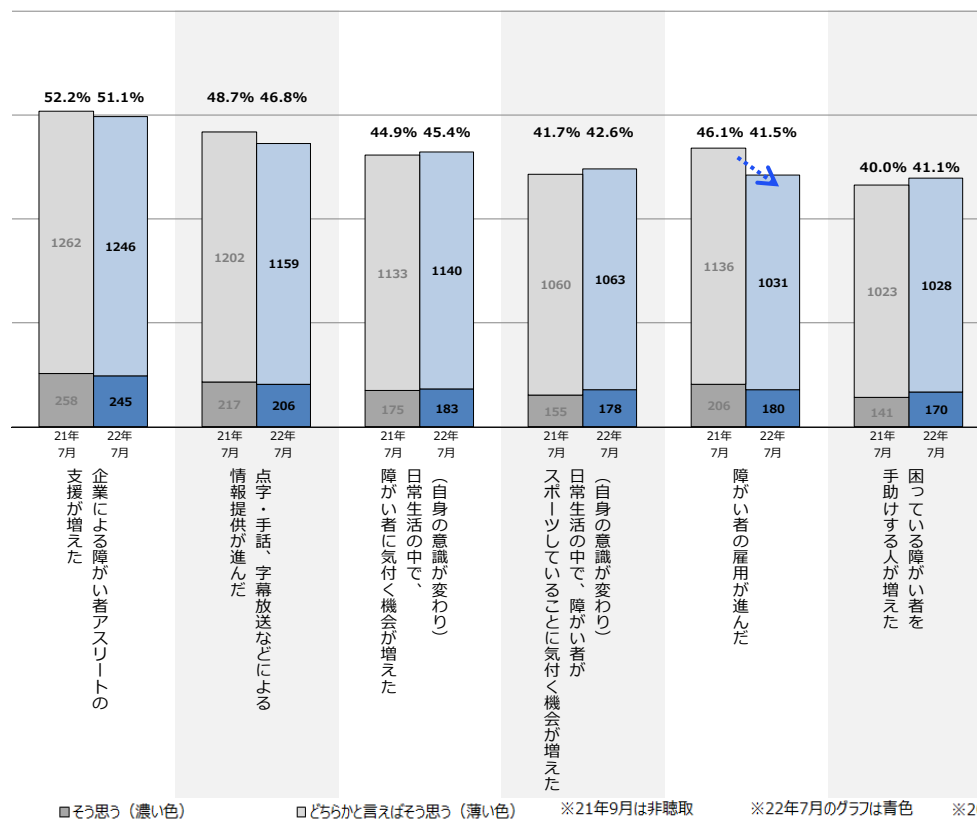


(2021年7月調査 : n=2,912)
 (2022年7月調査 : n=2,915)

4. 障がい者を取巻く社会の変化【時系列】2/2

Q9 東京2020パラリンピックの開催が決定した2013年以降、今日までの障がい者を取巻く社会の変化について、あなたの考え方をお聞かせください。(SAMT)
 SQ9 2021年以降、今日までの障がい者を取巻く社会の変化について、あなたの考え方をお聞かせください。(SAMT)

【2021年9月のみ非聴取】



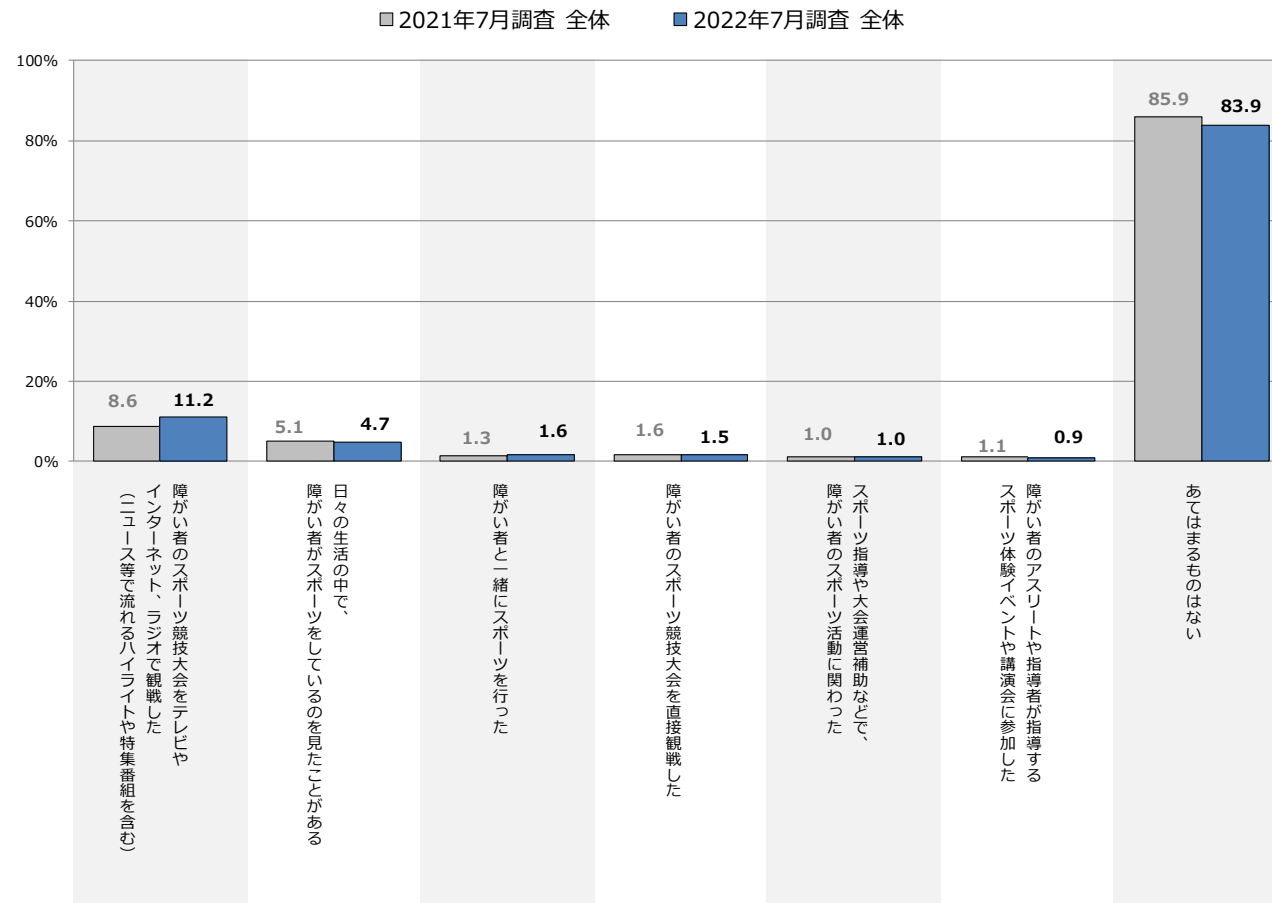
(2021年7月調査：n=2,912)
 (2022年7月調査：n=2,915)

5. 障がい者スポーツとの関わり【時系列】

障がい者スポーツとの関わりは、「競技大会をテレビやインターネット、ラジオで観戦した」が最も高く、「日々の生活の中で、障がい者がスポーツをしているのを見たことがある」が続く。観戦以外の関わりについては、いずれの項目も1%~2%弱に留まる。

Q5 過去1年間のあなたと障がい者スポーツとの関わりについてお答えください。(MA)

【2021年9月のみ非聴取】



(2021年7月調査 : n=2,912)
(2022年7月調査 : n=2,915)

※2022年7月調査の値を基準に降順並び替え

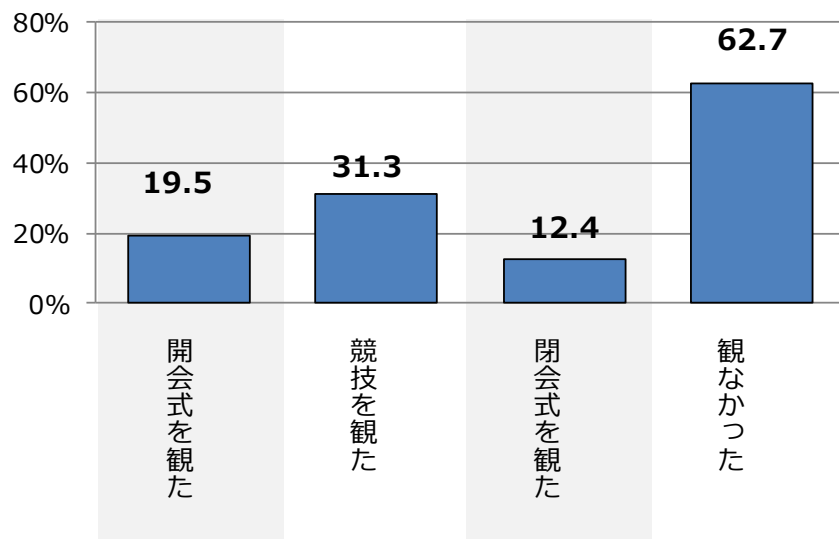
6. パラリンピック視聴経験【2022年7月調査のみ】

東京大会は地元、北京大会は海外で開催され、東京大会に比べて競技数が少なく、テレビ等での放送時間も短かった北京大会でも、約3割が何らかの方法で大会を目にしたという結果であった。

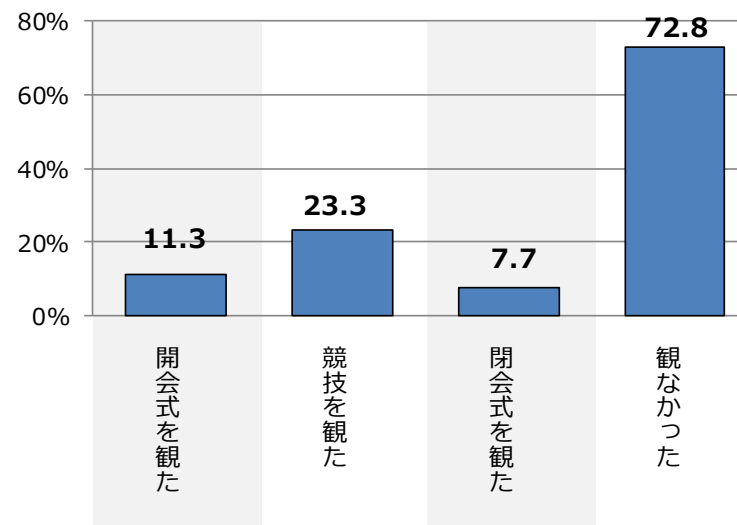
SQ7_2A あなたは2021年8月24日から開催された「東京2020パラリンピック競技大会」を観ましたか。(MA)
SQ7_5 あなたは2022年3月4日から開催された「北京2022パラリンピック冬季競技大会」を観ましたか。(MA)

【2022年7月のみ聴取】

【東京大会】



【北京大会】



(2022年7月調査 : n=2,915)

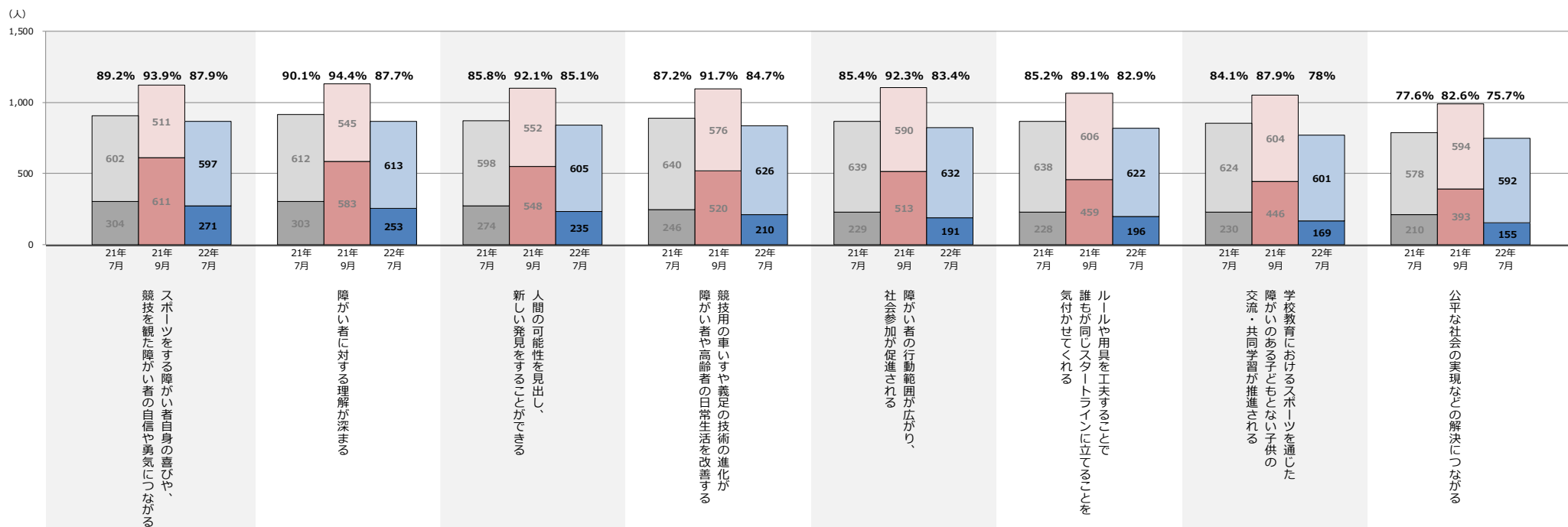
7. パリンピックが与える効果【時系列】

殆ど全ての設問について「(効果があると)思っている+どちらかと言えばそう思う」が8割を超えていた。
特に東京大会直後の2021年9月調査では、殆ど全てで9割を超えていた。東京大会直前の2021年7月と約1年後の2022年7月調査では顕著な差はなかった。

Q12 パリンピックが個人や社会に与える効果についてお聞かせください。(SAMT)【東京パリンピック観戦意向者ベース】

Q12 パリンピックが個人や社会に与える効果についてお聞かせください。(SAMT)【東京パリンピック競技視聴者ベース】

Q12 パリンピックが個人や社会に与える効果についてお聞かせください。(SAMT)【東京パリンピックまたは北京パリンピック競技視聴者ベース】



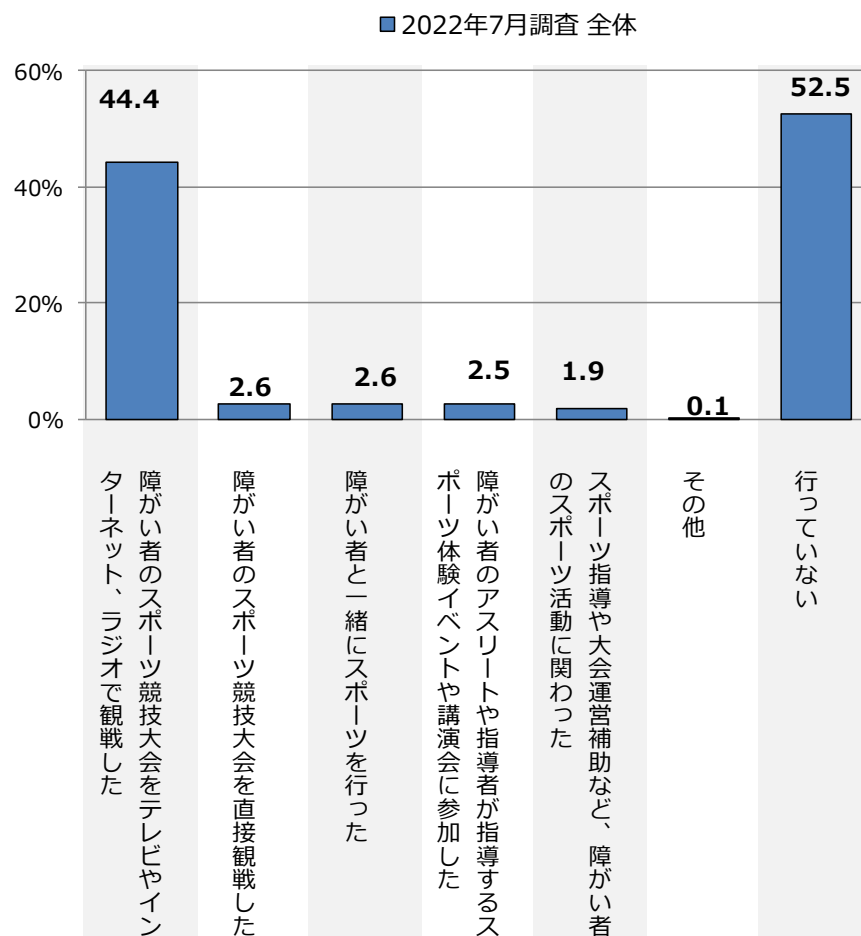
(2021年7月調査 : n=1,016)
(2021年9月調査 : n=1,195)
(2022年7月調査 : n=987)

8. 東京大会後に障がい者スポーツに関して行ったこと【2022年7月調査のみ】

パラリンピック競技視聴者が、障がい者スポーツに関して東京大会後行ったことについて、何かを行った方の中では「競技大会をテレビやインターネット、ラジオで観戦した」が44.4%と最も高い。5（P10）と比較すると「テレビやインターネット、ラジオで観戦」が大幅に伸びているが、一方で、「障がい者と一緒にスポーツを行った」や「指導や大会運営補助に関わった」など、直接的な関わりはどれも3%程度、半数は行っていないという結果となった。その他の4つについて、いずれも3%未満で大きな差はない。

SQ7_4 東京2020パラリンピック競技大会後、障がい者スポーツに関連してあなたが行ったことをお答えください。（MA）【東京パラリンピック競技視聴者ベース】

【2022年7月のみ聴取】



(2022年7月調査 : n=913)

【回答者プロフィール1/3】

年代

	n=	1 0 代	2 0 代	3 0 代	4 0 代	5 0 代	6 0 代	7 0 代	(平均 歳)
2021年 7月調査 全体(%)	2,912	6.0	12.5	15.6	18.4	15.4	18.1	14.0	48.11
2021年 9月調査 全体(%)	2,915	6.0	12.5	15.6	18.4	15.4	18.1	14.0	48.16
2022年 7月調査 全体(%)	2,915	6.0	12.5	15.6	18.4	15.4	18.1	14.0	48.25

性年代

	n=	男性 1 0 代	男性 2 0 代	男性 3 0 代	男性 4 0 代	男性 5 0 代	男性 6 0 代	男性 7 0 代	女性 1 0 代	女性 2 0 代	女性 3 0 代	女性 4 0 代	女性 5 0 代	女性 6 0 代	女性 7 0 代
2021年 7月調査 全体(%)	2,912	3.1	6.4	7.9	9.3	7.7	8.8	6.4	2.9	6.1	7.7	9.1	7.7	9.3	7.6
2021年 9月調査 全体(%)	2,915	3.1	6.3	7.9	9.3	7.7	8.8	6.4	2.9	6.1	7.7	9.2	7.7	9.3	7.7
2022年 7月調査 全体(%)	2,915	3.1	6.3	7.9	9.3	7.7	8.8	6.4	2.9	6.1	7.7	9.2	7.7	9.3	7.7

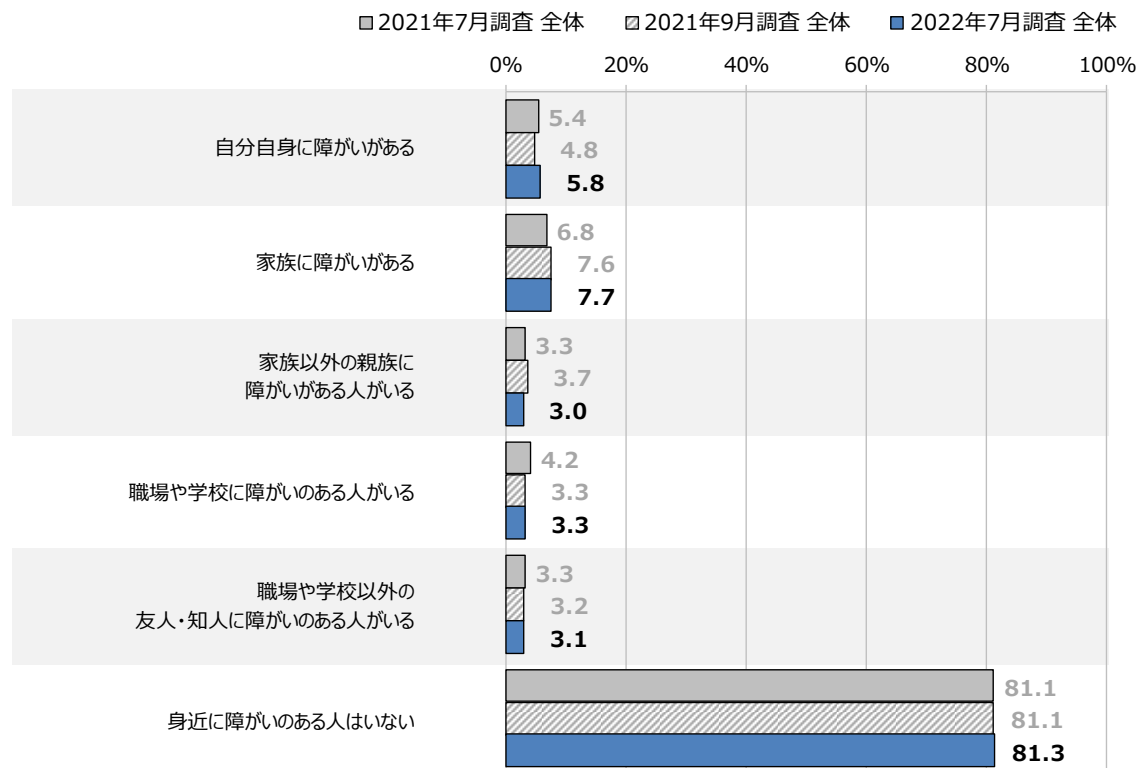
居住地

	n=	北 海 道	東 北	関 東	北 信 越	中 部 東 海	近 畿	中 四 国	九 州
2021年 7月調査 全体(%)	2,912	4.3	7.0	35.1	5.7	11.9	16.4	8.6	11.1
2021年 9月調査 全体(%)	2,915	4.3	7.0	35.2	5.7	11.8	16.4	8.6	11.0
2022年 7月調査 全体(%)	2,915	4.3	7.0	35.2	5.7	11.8	16.4	8.6	11.0

【回答者プロフィール2/3】

厚生労働省の障害者白書によると、国民のおよそ7.6%が何らかの障がいを持っていることになっているが、本調査のモニター群は4.8~5.8%とやや低めになっている。身近な『障がいがある人』について聴取したところ、「身近に障がいのある人はいない」が8割を占めている。3回の調査とも、各項目の数値は同程度となっており、障がいの身近さについて対象者の構成は大きく変わっていない。

Q3 あなたの身近に障がいのある人はいますか。(MA)

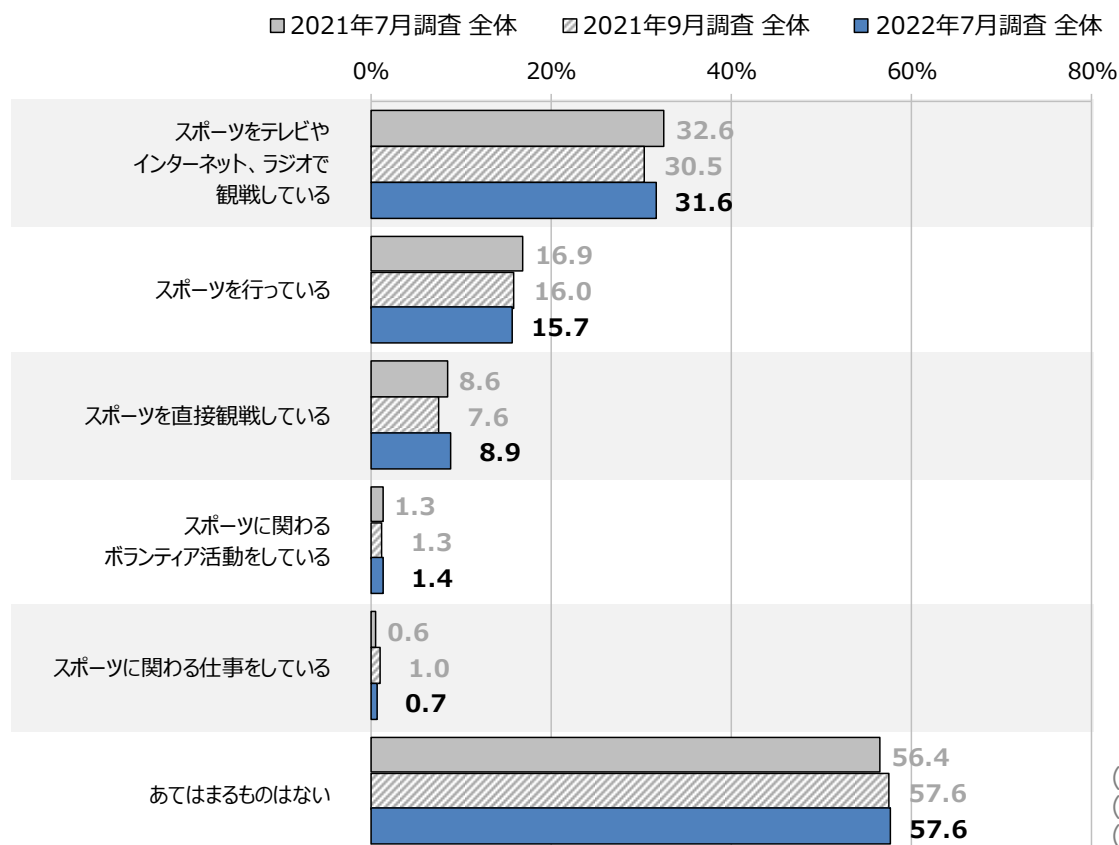


(2021年7月調査 : n=2,912)
 (2021年9月調査 : n=2,915)
 (2022年7月調査 : n=2,915)

【回答者プロフィール3/3】

「あてはまるものがない」が約6割と、他で実施した類いの調査と比べて、本調査のモニター群のスポーツへの関心は高くはない。3回の調査とも、各項目の数値は同程度となっており、スポーツとの関連度について対象者の構成は大きく変わっていない。

Q4 現在のあなたとスポーツとの関わりについてお答えください。(MA)



(2021年7月調査 : n=2,912)
 (2021年9月調査 : n=2,915)
 (2022年7月調査 : n=2,915)

※2022年7月調査の値を基準に降順並び替え